



# パチンコで勝つための 思考法<その1>

[勝ち組への壁を越える、そのマインドと  
ルール]

大市民の「百戦危うからず！」  
<http://www.pachinko1.com/>



## ■著作権について

このファイルは、著作権法で保護されている著作物です。  
使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

## ■使用許諾契約書

本契約は、本ファイル入手した個人・法人(以下、甲と称す)と発行者(以下、乙と称す)との間で合意した契約です。本ファイルを甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

### 第1条本契約の目的

乙が著作権を有する本ファイルに含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

### 第2条禁止事項

本ファイルに含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本ファイルから得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。

### 第3条契約の解除

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

### 第4条責任の範囲

本冊子の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても一切の責任を負いません。

こんにちは、大市民です。

このレポートは、私がパチンコで勝つために普段何を考え、どんな戦略を持っているのかをまとめたものです。

私自身、途中ブランクはあるものの、パチンコの経験は20年以上にもなります。

以前はそれこそ、パチンコでの稼ぎだけで毎月40~50万円くらいあったこともありました。

それは当時のパチンコ台が今ほど複雑ではなく、台自体が非常にシンプルな作りだったということが理由としてありました。

またメーカー側も今ほど成熟はしておらず、思わぬバグとか欠点が台にあった・・・などということも当時はよくあったわけです。

当時はそんな攻略法を見つけるのもパチンコの楽しみの一つであり、当時のパチンコ雑誌などは読者からそんな攻略法を募集し、優れた攻略法を発見した読者には現金100万円を贈呈する・・・なんていう企画もあったくらいです。

ちなみに私が当時、もっとも稼いでいた台は「ダブルエース」という権利モノの台でした。

この機種は大当たり確率が約1/80で、数字が揃うとチューリップがおよそ2秒間開きます。

そしてその間に役物の中に玉を数個入れ、下で回っているクルーンに玉を落とすわけですが、そのクルーンに一つだけあるVゾーンに玉が入って初めて大当たりとなります。

普通に打っていればVゾーンに玉が入る確率は3回に1回くらいなのですが、この機種はタイミングを見計らって止め打ちをするだけで、ほぼ100%Vゾーンに玉を入れることができました。

その他にも「バトルロイヤル」という台などは、チョロ打ちをするだけでデジタルが驚くほどよく回るようになる釘の配置で、普通に打てば千円で20回しか回らないのに、チョロ打ちするだけで50回くらい回りました(笑)。

これなんかもパチンコ攻略雑誌にいち早く情報が掲載され、さすがに寿命は短かったですが、それでもホールによっては1週間くらいは使うことができました。

その他にも、「ドン・スペシャル」とか「フィーバー・レクサス」など、朝一から単発回しで保留玉を点けずに大当たりさせると、それだけで保留玉連チャンが何度も来るような機種もありました。

昔はこのような台がメーカーから次から次へと販売され、いち早く勝てる情報をキャッチした者だけがオイシイ思いをすることが出来ました。

それこそパチンコ雑誌も飛ぶように売れた時代ですし、ホールも客も余裕を持って楽しくパチンコを打ち、そして勝つことができたものです。

### 【勝てなくなったパチンコ CR 機の時代】

以上のように、昔のパチンコ台というのは本当によく勝てましたし、当時はパチプロとして月に百万円くらい稼いでいる強者も実際に多く存在していました。

また、メーカーも今のように次から次へと新台を作ってはホールに導入させるというような体質ではありませんでしたし、客もホールも潤っていた古き良き時代だったと言えます。

しかし、世の中に CR 機が導入されるようになってから、パチンコはガラリと変わってしまいました。

それまでのシンプルな作りのパチンコ台は無くなり、最新のプログラムによって動く CR 機がホールのほぼ全てのシマを占めるようになっていったのです。

これによって、釘を見て勝つ台を選ぶという正統派のパチプロはほぼ全て淘汰され、釘師という職業さえ今では無くなりました。

そもそも台の波がプログラムに組み込まれている今の CR 機では、そんなにシビアに釘の調整をする必要がなくなってしまったからです。

このパチンコ業界の変化によって、私もそれまで長年打ってきたパチンコを打たなくなってしまうました。

なぜなら、パチンコはもはや勝ちが約束されたギャンブルではなくなったからです。  
(勝ちが約束されたギャンブルは、そもそもギャンブルではないとも言えますが・・・)

### 【パチンコ攻略教材との出会い】

その後、数年間はパチンコを打つことも無かったのですが、ある日ひょんなことから、今のパチンコでの勝つ方法を追求してみようと思うようになりました。

それからは毎日のようにホールに行ってはパチンコを打ち、その日の実践結果をノートにメモするというのが私の日課になりました。

しかし、それでも最近まではパチンコで勝つためのコツや考え方がどうしてもわからず、「今のパチンコなんて結局は勝てるワケがない。」と思っていたのです。

そんな時に知ったのが、インターネットで販売されている「パチンコ攻略教材」というものの存在でした。

「パチンコ攻略教材」というのは、昔からよくパチンコ雑誌の広告なんかに掲載している、何十万円もするような詐欺まがいのパチンコ攻略法とは違います。

私は、過去にそういった完全に詐欺のパチンコ攻略法を購入した経験もあります。

当時はかなり有名なパチンコ攻略集団で、テレビにもたまに出ていましたし、Vシネマにもなった有名な会社の攻略法・・・といえば分かる人もいるでしょう。

価格は確か30万円だったと記憶していますが、その内容はいわゆる「セット打法」というもので、ある手順を踏めば強制的に大当たりを引けるというお決まりのモノでした。

しかしそんなモノが本当に効果がある筈もなく、かといって裁判でも起こして失ったお金を取り返すほどの気力もありませんでしたから、高い授業料を払ったと思って諦めました。・・・。(相手の思うツボですね)

少し話がそれてしまいましたが、インターネットで販売されている「パチンコ攻略教材」というのは、セット打法のような全く効果の無い詐欺とは違い、実際にパチンコで勝っている人が、自分のパチンコについての経験や、勝つためのとっておき

のコツというものをまとめて販売しているものです。

そういった、実際にパチンコで勝っている人達の教材を次々と購入しては試していく内に、それまで負け続けていたのがウソのように勝てるようになりました。

さらには、日々のパチンコ実践の中で培った私独自のノウハウを構築しつつ、パチンコに関するオカルトや疑問を解消するために、負けることを前提に打ち続けて得た理論などを加味し、ようやく私自身パチンコに対する自信というものが付きました。

ちなみに今では、私のパチンコでの勝率は1日単位で8割といったところです。そして、一ヶ月での収支がマイナスになることはまずありません。

パチンコでの勝ち組は1割と言われている今のパチンコで、なぜ8割もの勝率をキープできるのでしょうか？

また、パチンコで勝ち続ける人と負け続ける人の違いは何なのでしょう？

パチンコはギャンブルですが、競馬や競輪、あるいはカジノなど、他のギャンブルとはちょっと違います。

パチンコで勝ち組になるためには、そのパチンコというギャンブルの中にある独特の考えというものを把握していないといけません。

そしてそれは、このレポートを読めば全てわかると思います。

もちろん一度読んだだけでは、なかなか全てを理解することは難しいと思います。

ですので、日々パチンコを打つ中で何度もこの内容を読んで頂き、一日も早くパチンコで勝つための考え方や理論というものを身に付けていただければ・・・と思います。

## “パチンコで勝つ”とは、そもそもどういうことか？

まず最初にあなたに考えて欲しいのは、そもそも「パチンコで勝つ」とはどのようなことなのか・・・ということです。

この部分を最初によく理解しておかないと、自分が行っている立ち回りに疑問を抱いたり、あるいは気持ちがブレたりして、それが悪い影響を及ぼすことになる可能性があります。

ちなみに、ここでいう「パチンコで勝つ」ということの意味は、ある期間内で（例えば一ヶ月）、投資したお金より戻ってきたお金の方が多い状態を意味します。

ここであえて「ある期間内」という言葉を入れたのは、パチンコが確率のゲームであり、その性質上、一日単位で必ず勝てるものではないからです。

たとえ一日単位での勝率8割をキープしているような、パチンコに相当実力を持った人でも、2割は負けているということになりますからね。

ですので、「パチンコで勝つ」ということを目標にするには、本当は一ヶ月単位くらいを目途にするのがちょうどいいと思います。

もっとも、このレポートを何度も繰り返し読み、理解して、実践と検証を繰り返していくうちに、あなたも私と同じくらいの勝率は出せるようになるはずですよ。

## 【平均初当たり確率と平均連チャン数】

さて、あなたが日々パチンコを打つ上で、必ず意識してほしいものがあります。それが「平均初当たり確率」と「平均連チャン数」です。

この2つの数字のどちらか、あるいは両方が、打つ機種のスぺックよりも良い数字になっていれば、それがパチンコでのトータルでの勝ちにつながるからです。

これを聞いてあなたは、「パチンコは機種によってスぺックが決まっているのだから、そんなもの自分の努力でどうこう出来るものじゃないだろう？」と思われるかもしれませんが。

特に固定観念に捉われた人にとっては、パチンコは打てば打つほどスペック通りに収束するものだし、大当たり確率なんか打ち方によって変わるワケがない、と思いがちです。

・・・ところがどっこい、変わるのです。

だからパチンコは勝てるギャンブルなのであり、まさにココがこのレポートのキモとなっています。

信じられないかもしれませんが、パチンコはどのような立ち回りをするかによって大当たりする確率が変わってきますし、平均連チャン数も変わってきます。

そして長い目で見て、常にこの2つの数字が打つ機種スペックよりも高い状態をキープしている人が、“勝ち組”と呼ばれる人たちなのです。

では、いったいどんな立ち回りをすれば、この「平均初当たり確率」と「平均連チャン数」が高くなるのでしょうか。

まずはそれが知りたいですよ？

でもその前に、そもそもパチンコの大当たりシステムについてちょっと考えてみる必要があります。

焦らず、順番に見ていきましょう。



## パチンコの大当たりシステムって、結局どれが本物なんだろう？

まず最初に断っておきますが、ここに書いてあることについては私の個人的な推測が含まれていますので、その点はご了承下さい。

パチンコの大当たりシステムについては、昔からいろんな説が囁かれていて、インターネット上にもいろんな憶測が飛びかっています。

まず代表的なのが、完全独立抽選方式、つまりパチンコ台は個々がそれぞれ独立して、その機種によって決まったある一定の確率で抽選が繰り返されているという王道説です。

この説が正しいとなると、パチンコは全国どこのホールで打っても結果は同じということになり、千円で少しでも多く回る釘の良い台を打つことだけが、パチンコでの有効な攻略法ということになります。

これがもし本当なら、そもそもパチンコに有効な立ち回りなど存在しなくなってしまいますね。

・・・でも、私が長いあいだ蓄積してきたデータを分析してみると、そんなことはないと言えます。

私はこれまでに実践してきた内容を全て、こと細かくエクセルに記録していますが、その膨大な実践データがあればいろんなことが見えてきます。

例えば、1台に投資するもっとも最適な上限金額はどれくらいだろうと考えたとします。

その場合、この膨大なデータの中から、1台に1万円以上使ってしまった台だけをピックアップし、「もし1万円でやめていれば、どうなっていたか？」を仮定した数字を入力していきます。

もちろん、1万円以上投資して大当たりを引き、連チャンして大逆転！というケースもありますから、そんな場合は1万円の負けとして計算します。

すごく時間はかかりますが、そうやって計算しなおすだけで、結果的にはトータル収支が飛躍的にアップしたのです。

さらに詳しく分析すると、トータル回転数が118,000回転分のデータが48,000回転となり、収支額は420,000円のアップという結果となりました。

つまり、打つ時間が半分以下になったにもかかわらず、これだけの収支アップになるということから、時間効率という面から見ても雲泥の差ですよね。

そしてさらに詳しく分析してみると、「平均連チャン数」はほぼ同じ数字でしたが、「平均初当たり確率」が飛躍的にアップしたことにより、トータルで収支がアップする結果につながったと分析できます。

つまり、1台に継続して1万円以上投資しても、その反動で連チャンが伸びるわけではないし、それどころか、どこまでハマるかわからない「危険ゾーン」に突入してしまっているということがわかります。

この分析というのは、あくまでも「タラ・レバ」の域を越えませんが、少なくとも私はこのデータ結果を得たからこそ、今では1台に1万円以上使わないようにしていますし、その結果本当に初当たり確率が高くなり、収支も上がるようになりました。

よく、「パチンコは500回転までに大当たりを引き戻さないと、どれだけハマるか分からない。」などと言う人がいますが、それって何の根拠も無しに経験だけで言っているだけのオカルト発言とも受け取れます。

でも、このように実践データから理論的にこの結論を導き出し、その上で結果を出しているのなら、それはオカルトではなく、立派な根拠に基づいた立ち回りになると思いませんか？

以上のことから、パチンコの大当たりシステムはサイコロの目のような単純な抽選方法ではなく、それゆえに勝てる立ち回りが確実に存在するというのをぜひ知って欲しいのです。

### 【巷にあふれるホルコン理論攻略について】

パチンコの大当たりシステムについて、ネット上でも情報が溢れているように、ホールに設置されてある台は全て出玉を調整できるコンピュータが管理しており、そのコンピュータが大当たりを分配するシステムになっているという、ホルコン理論攻略というものがあります。

ホルコン理論を逆手に取った攻略法というのは巷に多く出回っており、その内容はどれも似たようなものが多いです。

具体的には以下のような内容ですね。

1. パチンコ台は4~5台が1グループとして動いており、そのグループの中で大当たりが巡回するため、今現在大当たりしている台から次に大当たりする台が予想出来る。
2. 1グループは末尾番号が同じ台か、或いは横並び、1台飛ばし等、ホールや地域によって異なる。
3. ホールコンピュータ（ホルコン）が大当たりを抽選する時間は決まっており、その時間に集中して打つことで大当たりを獲得することが出来る。

と、以上のような攻略法がいわゆる「ホルコン理論攻略」というもので、多少細かいところは違っていたりはしますが、多くは同じようなことが書かれてあります。

このホルコン理論では、日本中全てのホール、全ての台でこのホルコンが大当たりを調整・管理しているということになっていますが、これは少し理論的に無理があると私は思います。

というのは、もしこの理論が正しいとすると、裏モノ（いわゆるBモノと呼ばれる裏チップの存在）の説明が付きません。

Bモノとは、ウラ開発屋が正規のパチンコ台のロムを解析し、設定を自由自在に行うことが出来るように改ざんした違法チップのことですが、これが市場に流通した全盛期は2000年頃だと思います。

この頃にはもうすでに今と同じようなホルコン理論はありましたが、正規のパチンコ台で合法的に出玉設定が出来るホルコンというシステムがあれば、そもそもBモノの存在価値がありません。

そもそも“ホルコン”というものは従来、ホールが経営していく上で必要な台情報を吸い上げるためのものであり、大当たりを発信する機能は無いというのが通説です。

では、なぜこんなにも世の中にホルコン理論が氾濫しているのかというと・・・。

それは、実際に出玉設定が出来て、ホルコン（正式にはホールコン）と一体化して動く違法なシステムが存在するから・・・と私は思っています。

以下は遠隔操作の装置を開発・製造し、取り付け業者に卸すウラ開発屋の話です。

「遠隔操作には数種のやり方がある。とりあえず簡易型、普及型、高級型と名付けて、3種の仕掛けを説明しましょう。簡易型は～略～。普及型は店が設置しているホールコンピュータと、配線までそっくり併設する形になる。

島コンと並んで遠隔用島コン、台コンに並んで遠隔用台コンをつける。

余計なものが付くわけだけど、所轄の署には管理用のコンピュータを付けますよと申告する。まずバレません。割り数（玉の払い出し個数を投入個数で割った場合。0割=100%）も自動設定できるし、何時に大当たりを出すかなど自動遠隔も可能。もちろん各台のアウト、イン情報も集計できる」

「高級型は遠隔装置をホールコンピュータに組み込んだもので、正規のコンピュータと一体化して動く。島コン、台コンも利用するので余計なものを一切取り付ける必要がない。設置したことは店の従業員はもちろん、所轄署の生活安全課や業界の調査係にもわからない。」

溝口敦著「パチンコ 30 兆円の闇」より

以上はノンフィクション・ライターの溝口敦氏が、2005年に「週刊ポスト」に連載したものからの抜粋です。（溝口氏は今では珍しい正義感のある無骨なジャーナリストで、その豊富な人脈からパチンコの裏業界の人間に接触し、インタビューに成功したことで当時話題になりました。）

このウラ開発屋の話によると、その時すでに高級型以上の、ホールにとって「理想」の遠隔装置「第三世代」もすでに存在する・・・と言っています。

つまり、昔から巷で言われているホルコン理論の正体は、一部のホールで採用している違法遠隔システムと混同していると考えられます。

では、出玉設定の可能なホルコンは現実に存在するとして、その遠隔装置はどれくらいの割合でホールに導入されているのでしょうか？

前述のウラ開発屋の話では、「遠隔操作は5%ぐらい。Bモノの導入は20%、ただしパチスロだけ見れば全店の50%がBモノを導入している。」ということですが、

この部分の数字については 2005 年当時のインタビューということもあり、現在ではあまり当てにすることはできません。

それに、このウラ開発屋が本当の数字を正直に言っているとも限りませんし、自ら「普及型」などという表現をしていることから、実際はもっと多くのホールで採用されているかもしれません。

ちなみにここに出てくる「Bモノ」というのは正規のロムとは別の「裏モノ」のことで、違法ロムのことです。

昔からパチスロを打っている人はこの「Bモノ」の存在は比較的身近に感じると思います。

パチスロに関しては、ホール側もあえて従来とは違う動きをするこの「Bモノ」をウリにして導入していた店もあつたくらいですし、会社帰りのわずかな時間を使ってパチスロを打つサラリーマン・スロッターにとっても、正規のモノよりも爆発力の高い裏モノの方が人気があつたりしましたから。

でも、ホールにとってこの「Bモノ」は射幸心を煽る為とかいろいろ言われていますが、どちらかといえばホールが出玉を思い通りにするために導入されることが多かったのではないかと思います。

特に現在のように、ホールにとって非常に厳しい台所事情では、機械まかせの営業だけでは他の店との差別化を図れず、思うように集客をすることが出来ません。

出したい日にはしっかりと出てもらわないと困るし、回収したい日に思いがけず出たしまつても困るわけですから。

特に今のように、メーカーが次から次へと新台を販売してはホールに導入を促すような体質では、新台入替え費用が膨大に膨れ上がっているはずですよ。

この費用を賄うために、ホールは絶対にお客を飛ばすようなことをしてはいけません。

そもそもホール経営というのは、お客からお金を回収するのが目的ですよ。

そしてその回収したお金の中から、新台入替えの費用や従業員の給料、設備費や電気代などを支払って、そして残ったお金が利益となります。

ビジネスなのですから、当たり前のお話ですよ。

ただ問題は、ホールは稼働率が上がらないと、これらのお金が工面出来なくなってしまふということ。

つまり、ホールは本来の目的である回収ばかりをしていては、お客が飛んでしまつて身動きが取れなくなってしまうということです。

だから、時にはお客さんに出玉をサービスし、「あのホールは出る！」というイメージを付けて集客を図りたいし、他店との差別化を図りたいわけです。

ここは非常に大事なところですのでよく理解してほしいのですが、ホールは本来、お客からお金を回収するのが目的であり、そのために出玉をサービスする必要があるのです。

もしあなたがホールのオーナーだとしたら、会社存続の生命線である稼働率を維持するために、前述のようなホールコンと一体化した出玉設定を自動で行える設備があれば、喉から手が出るほど欲しいと思いませんか？

よく、ボーダーラインより回る台を長時間打つことだけがパチンコの必勝法だという人がいますが、そういう人は本当に疑うことを知らない良い人なんだろうなと私は思います。

政治の世界でもそうですが、巨大なお金が動く市場ではかならず建て前と本音の部分が存在します。

特にパチンコ業界なんて日本では自動車産業に匹敵するほどの巨大な市場ですし、それにもかかわらず、法律的には未だにグレーな業界です。

そんな業界で、健全な経営だけが行われていると考える方が不自然だと私は思うのですが、あなたはどう思いますか？

### 【パチンコホールの実態を探る】

さて、話を「裏モノ」についてのことに戻しますが、パチンコメーカー側も当然のことながら「裏モノ」の存在は認識しており、セキュリティの高いチップを採用したり、裏モノが出ないように努力はしています。

でも、この種の対策と開発はイタチごっこになるのが常で、技術的にこのBモノを排除するというのには限界があります。

第一、メーカーに出来てウラ開発屋に出来ないなどということの方が不自然ですから。

でも一つ認識しておきたいのは、そもそも出玉設定の出来るホールコン・システムを導入しようと思えば、ホールは全ての台に付いている正規のロムを、違法のロムに付け替えなければなりません。

そしてその違法ロムの生産は海外の半導体メーカーに数万個単位で発注して作られるものなので、基本的にメーカーから販売された直後の新台には裏モノはありませんし、生産台数が少なく、あまり人気の無い機種にも使われる可能性は低いといっていでしょう。

つまり、日本中全てのホール、全ての台で、ホールコンピュータが大当たりを調整・管理しているというホルコン理論は、少し無理があるわけです。

これは私の推測ですが、今現在このような出玉設定の出来る設備を導入しているホールがあるとしても、それは長期間の稼働が期待できるような、例えば「海シリーズ」を中心とした人気のある機種の主要な数シマだけだと思います。

ホール側からすれば、導入から撤去までの期間が短い不人気台とか寿命の短い機種にまで、高い設備費を払ってこんなシステムを導入する必要はないわけです。

例えば、導入したばかりの新台はどういう動きをするかわからないし、新台だからといって、怖くて釘を思いっきり開けることは出来ません。

その予測不可能な還元率の帳尻を合わせるためにも、出玉設定の出来るシステムが必要となってくる・・・という推測は十分出来ると思います。

### 【パチンコメーカーの動きと、今のパチンコの大当たりシステム】

パチンコメーカーは当然のことながら、ホールが違法なシステムを行うことを良しとしませんし、また一方で、ホール側の利益も配慮して台を開発する必要があります。

ホール側の利益にも配慮するというのは、より集客できるような面白い台を開発するのはもちろんのこと、ホールがより扱いやすい台を開発するということです。

そしてその他にも、当時全国のホールが脅威に思っていたゴト師対策やプロ対策なども、メーカーが今後取り組むべき重要なことのひとつだったでしょう。

一昔前のフィーバー台は、それこそ大当たりのプログラムは単純なものでした。

今の台のように確変も時短もなく、例えば大当たり確率 1/200 の台なら、延々と 1/200 の確率で抽選が繰り返されているだけのものだったのです。

このようなパチンコ台では、ホールは毎日のように釘をこまめに調整していました。

釘の調整が集客に大きく影響してきますし、結果、収支にも大きな差が生まれてくるわけですから当然です。

だから当時のホールにはプロの釘師が必ずいて、その釘師の腕前如何によって収支が決まり、そのためにホールでは釘師が大きな顔をしていたのですね。

余談ですが、一流の釘師は微妙な釘の調整で、台にスランプを作ることが可能だと言われています。

スランプというのは、いわゆる「波」のことであり、この場合は回転数のムラであったり、羽根モノであれば鳴く回数などのムラなどを意味します。

そしてこのスランプによってパチンコ台に波を作り出し、ゲーム性を面白くしていたとも言えます。

また、この当時にはパチプロと呼ばれる人たちが大勢いました。

当時の正当なパチンコ攻略法といえば、それこそ釘師のクセを読み、明日は釘師がどの台を開くかを予想し、少しでも多く回る台を見つけて打つことでした。

そしてパチプロは、一旦釘の良い台を見つけると一日中その台を離れません。

明日になれば釘師によって釘が締められるのですから、その日の内に抜けるだけ抜こうと考えるからです。



ホールからすれば、普段お金を使ってくれる常連さんに対して、たまには還元するために釘を開いているのに、それをプロに一日中陣取られてはたまりません。

さらには「ゴト師」と呼ばれる犯罪者集団も当時は全盛の時代で、電波ゴトや裏ロム仕込み等の方法により、それこそ一日に何十万、何百万円もの被害を出してしまうホールも数多くあったのです。

こういう客(?)というのは、正統派のパチプロだろうがゴト師だろうが、ホール側にとっては心から消えて欲しいと願うような脅威の存在だったことは想像に難くありません。

そもそもこういう輩がはびこるようになった原因の一つは、当時のパチンコ台の当たりシステムが非常にシンプルなものだったからです。

そして台を作るパチンコメーカー側も、「これではイカン!」となり、パチプロやゴト師などを排除し、誰もが公平に楽しめるような真の娯楽といえる次世代のパチンコ台を開発する必要があったのです。

考えてみれば、当時のパチンコホールにいる客といえば少々ガラの悪い男性客ばかりでしたし、メーカーが女性客や普通のサラリーマン、若者達などを取り込まないと、パチンコ業界に未来はないと思うのは当然のことでしょう。

そういう意味でも、ホール側もいわゆる「不良客」を店から排除する必要がありましたし、メーカーはメーカーで、そんな「不良客」の食い物にされるような台ではなく、誰にも公平にチャンスがある、今のパチンコ台のようなプログラムを開発する必要があったのです。

こういった時代の背景などもあり、パチンコ台はそれまでとは全く違うものとなりました。

そしてホール、メーカーの思惑通り、当時あれほど稼いでいたパチプロ達は、それまでは通用していた方法が全く通用しなくなり、ほとんどが消えていなくなりました。

かくいう私も実はその一人で、学生時代はパチンコだけで生活費を賄い、毎日のように飲みに行ったりしていてもお金が尽きるというようなことはありませんでしたから、当時は本当に良い時代だったと思います。

それまで毎日のようにパチンコを打っていた私も、この頃から思うように勝てなくなり、「もうこれ以上今のパチンコで勝つのは無理だ。」と判断し、パチンコからは遠のくようになりました。

このパチンコ台の過渡期で、中でももっとも大きい変化は、プログラムそのものに波（スランプ）を作り、釘を調整するのに特殊な技術が必要無いようにしたことでしょう。

これによって、専門的な技術を持った釘師一人によって収支が左右されるというようなことはなくなり、そもそも釘師自体が職を失ってしまっていて、今では店長が釘を叩いて調整することが多いようです。

ちなみに私は、ある著名なパチンコホール・コンサルタントの「店長向けセミナー」を収録したDVDを見たことがあります。

その中で著名なホール・コンサルタントの方は、

「今のパチンコ台は台自体にスランプ（波）が作ってあるから、昔のように釘でスランプを作る必要は無い。ただし釘調整をしなくていいという意味ではなく、過去のスランプグラフを見て、この台は今日放出すると思えば釘を締めて、出ないと思えば釘を開くと良い。」

ということを言っていました。

さて、以上のような経緯で見事ホールからパチプロ達を追い出すことに成功したわけですが、問題は他にもあります。

中でももっとも大きな問題が、先ほども説明したように、裏モノや遠隔操作を代表するような、ホール側の不正問題です。

これらの根が深い問題を、メーカー側は一体どうやって無くせばいいのか？

そもそも裏モノの存在意義というのは、正規のパチンコ台には無かった爆発性とか波といったゲーム性を加えることにより、パチンコそのものを面白くして稼働率を上げたいというホール側の需要に答えるためです。

では、メーカーがこのような裏モノを市場から追い出そうと思えば、正規のパチンコ台にそういった波をプログラムすることで解決出来ると思いませんか？

さらには正規のプログラムでも、ホール側で何らかの方法で出玉調整が行えるとすれば、もはや裏モノの存在価値は無くなってしまいますよね？

結局のところは推測の域を出ないのですが、だからこそ大事なのは仮説をし、それを実戦の場において検証することです。

そしてこのレポートは、まさにそういった様々な仮説を立て、実戦の場において検証し、その中から結論を導き出したものです。

そもそも私たちが本当に知りたくて得たい情報というのは、大当たりシステムの真実なんかではないはずです。

もし仮にそれがわかったところで、いつまたそのシステムが変更になるかもわかりませんし、それが安定した勝ちにつながるとは私には思えません。

それよりももっと大事なことは、実際にあなたが行くホールにおいて、どう立ち回れば勝てるかということではないでしょうか？

さて、パチンコで勝つための思考法<その1> 【勝ち組への壁を越える、そのマインドとルール】は以上になります。

続編の<その2>では、実際に私が打った実践レポートを交え、パチンコで勝つための具体的な方法について書いていますので、どうぞ参考にしてみてください。

これを読めば、パチンコというギャンブルの真実、そして勝ち組になるためにどう行動すればいいかがわかるはずです。

大市民

大市民の「百戦危うからず！」  
<http://www.pachinko1.com/>